

登録コード	EKE20900	開講年度	2026			
授業科目	学校組織連携による教育実践				担当教員	北澤 嘉孝 他
英文授業名	Planning and management of school collaboration				副担当	賜 正俊・山口 学・若林 史也・谷塚 光典
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室			授業形態	演習	備考	1・2年生
信大コンピテンシー	非該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】			【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				学校組織連携を実現するための教育の専門職としての学識・技能を獲得する。	
	2 4 E Aカリ					
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				学校組織連携を実現するための教育現場の諸課題の背景にある関係構造を明らかにして新たな学校組織連携による教育実践を提案できる。	
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
	協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力				学校組織連携を実現するための協働的な問題解決を可能にする人間関係構築力を獲得する。	
(2)授業の概要	本授業は、松本附属学校園の研究授業・保育参観と研究会への参加、松本附属学校園でのミニラウンドテーブルへの参加、長野附属学校での研究授業や「『探究的な学び』成果発表交流会」等への参加により展開する。 担当教員が小学校・中学校・特別支援学校・幼稚園・教育事務所・教育行政での実務経験を活かして講義を行います。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス、学校組織連携の現状<北澤教員・賜教員・山口教員> 第2回：校種間連携による教育活動の分析 幼小接続の視点から<賜教員・若林教員> 第3回：校種間連携による教育活動の分析 小中連携の視点から<賜教員・若林教員> 第4回：校種間連携による教育活動の成果と課題<賜教員・若林教員> 第5回：地域連携による教育活動の分析 キャリア教育の視点から<北澤教員・山口教員> 第6回：地域連携による教育活動の分析 STEAM教育の視点から<北澤教員・谷塚教員> 第7回：まとめ、学校組織連携のこれから<北澤教員・賜教員・若林教員> 受講者の実践研究領域や興味関心等に応じて内容や計画を変更することがある。 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）					
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・各回の振り返りレポート：50%、授業全体を通した最終レポート：50% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可					
(5)履修上の注意	・この授業に関する連絡事項等は原則としてeALPSシステムを使って行うため、登録メールアドレスに着信するメール内容を随時確認すること。 ・指定されたフィールドワークに参加すること。 ・フィールドワーク参加にあたっての交通費等諸費用は自己負担とする。					
(6)質問、相談への対応および連絡先	原則として、事前にメールでアポイントメントをとっていただければ、必要に応じて相談等の時間を確保します。 北澤嘉孝：kitazawa_yoshitaka@shinshu-u.ac.jp（中校舎M207 / 附属長野中） 賜 正俊：tamo@shinshu-u.ac.jp（中校舎M207 / 附属幼稚園） 谷塚光典：yatsuka@shinshu-u.ac.jp（北校舎N211） 実務家教員研究室（各附属学校の教職大学院演習室）					
(7)成績評価の基準	「卓越している」：学校組織連携を実現するための教育現場の諸課題の背景にある関係構造を多面的かつ総合的に明らかにして、新たな学校組織連携による教育実践をわかりやすく提案している。 「かなり上にある」：学校組織連携を実現するための教育現場の諸課題の背景にある関係構造を多面的に明らかにして、新たな学校組織連携による教育実践を提案している。 「やや上にある」：学校組織連携を実現するための教育現場の諸課題の背景にある関係構造を明らかにして、新たな学校組織連携による教育実践を提案している。 「合格水準にある」：学校組織連携を実現するための教育現場の諸課題の背景にある関係構造を部分的に明らかにして、新たな学校組織連携による教育実践を提案しようとしている。					
(8)事前事後学習の内容について	・自分の教育実践に対する課題に関連する文献や情報を収集すること。 ・この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。					
【教科書】	・指定しない。					
【参考書】	・授業の中で適宜紹介する。					